

かるがも



第21号

発行所 千葉県こども病院
〒266-0007 千葉市緑区辺田町 579-1
TEL 043-292-2111
FAX 043-292-3815
<http://www.kodomo.umin.jp/>

新年のご挨拶

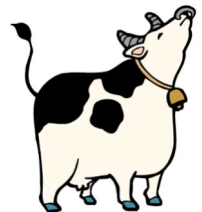


病院長 伊達裕昭



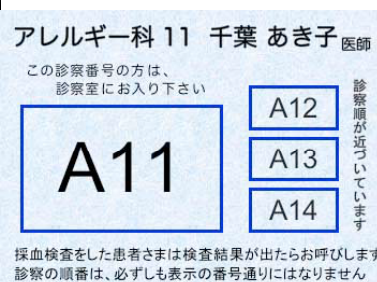
今年の正月は天候にも恵まれ、暦の上でも長い休みをとることが可能だったことから、ゆったりと過ごされた方も多かったことと思います。

昨年は子年(ねどし)に因んで子孫繁栄につながるような活気にあふれる一年を期待しましたが、石油価格の高騰を経験した後、百年に一度の不況とも言われる大変に厳しい社会情勢のまま年を越してしまいました。明けて今年の干支は丑(うし)です。「漢書」によると「丑」という字は「紐」(ちゅう:「ひも」「からむ」の意味)であり、芽が種子の中に生じてまだ伸びることができない状態を表しているそうです。現在の低迷感、閉塞感が今年中に一気に晴れることは難しいのかも知れませんが、少しでも状況が上向き、本年が皆様にとって明るく穏やかな一年になりますよう、お祈り申し上げます。



すでに報道などでご存じのこととは思いますが、昨年は県立病院全体の将来構想を見直す年でもありました。年度始めから半年をかけて外部委員による詳細な検討が行われた結果、県立の各病院を一つの高度専門医療センターに統合するという先の構想は白紙化して、それぞれの病院はこれまで同様に独立した運営を行い、経営努力を続けるという結論になりました。この提言を受けた後、平成18年4月から務められていた近藤俊之病院局長が年末に退任されて、新たにこの1月から小田清一病院局長が着任されました。今後の県立病院全体の舵取りには多少の変更も考えられますが、当院の運営方針はこれまでと変わることはありません。これからも急性期の高度専門医療を行う独立型のこども病院として、千葉県の小児医療の中心的役割を担い続けて参ります。どうかこれまで同様、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

久しぶりに当院を受診されたご家族に、「病院の仕組みがずいぶん変わってしまい、戸惑いました」と言われることがあります。



外来受診の受付から、診察の呼び出し表示、コンピュータ画面を用いた画像や検査結果の説明、そして予約の手続きにいたるまで、この一年をかけて導入したオーダリング・電子カルテのシステムによって、確かに当院の診療の仕組みは大きく変わりました。入力作業を始めとする複雑なコンピュータ操作に手間取ったり、困惑しながらも、職員一同が協同して病院全体



のこの大きな変革に参加しました。すべては院内の職員が職種を超えて広く患者さんの情報を共有し、効率的で安全な医療を行うために進めている IT 化であり、その真価が問われるのはこれからでしょう。

もとより病院の建築は 20 年前であり、こうした先進的な IT 化を生かす器として最適な構造ではありません。

「新しいワインは新しい革袋に」という言葉もあるように、最新の IT システムは新しい施設や設備に付与されてこそ、より機能的で動線も快適な診療空間を作ることができるかも知れません。しかし実際には限られた医療資源の中でやりくりと工夫をこらしながら、職員は日々「古い革袋に新しいワインを入れる」作業に努めています。こうした形での病院変革にはあちこち欠点も目に付き、戸惑われる部分もあるとは思いますが、病院が成長を続けるための変化と考えご容赦ください。

いつでも、また病院内のどこからでも、コンピュータを介して指示を出すことができ、医療情報が得られ、画像や検査の結果も画面上で確認できる。そうした病院内の IT 化は、医療に利便性と透明性、効率の向上をもたらす一方、「人」を相手にする病院という職場では顔を会わせてのコミュニケーションの減少を招く恐れを持つ、両刃の剣です。年頭に当たっての職員への挨拶でも、このような変革の最中であるからこそ、顔の見えるコミュニケーションの重要性が増していることに注意を喚起しました。

これからも県内の小児医療の中心として、現在の機能をさらに高め、透明性が確保された情報の発信ができる医療施設を目指したいと考えています。本年もより一層のご支援とご協力をお願いして、新年のご挨拶といたします。

平成 21 年 1 月